

幼稚園で進める保護者対象の「情報モラル研修プログラム」の開発と試行

平松 茂(環太平洋大学)・桐野志摩美(株式会社 Compallet)・遠藤 勇次(岡山学校情報化研究会)

概要：幼児期における情報モラル教育の必要性と正しい生活習慣の定着の重要性を保護者が認識するための教材および研修プログラムを開発し、それらを利用した研修を実施して、その効果を検討する。

キーワード：情報モラル、研修プログラム、体験型研修、幼児・保護者、ゲーム機

1 はじめに

青少年のスマホの利用については、自治体ごと、学校ごとに多くの取り組みがなされており、一定の成果は出ている。しかし、子どもたちが初めて手にするインターネットに接続できる機器は、スマホでなくゲーム機である。ゲーム機には、簡単にインターネットに接続できる機能やゲーム機独自の通信を利用して知らない人と通信できる機能が備わっており、多くの子どもたちが利用している実態があるものの、安全に利用するための指導がほとんど行われていない。本研究では、開発した教材と研修プログラムを岡山市内の幼稚園で試行し、その効果を検討する。

2 研究の背景

筆者らは、2014年度から幼稚園の保護者対象の情報モラル研修への取り組みを始めており、いくつかの知見を得た。2014年度は、携帯ゲーム機を使用する前にあらかじめ知っておくべき機能、ペアレンタルコントロールの設定の仕方と制限のかかり方等の体験講習を実施した。(平松他 2014) 保護者にとっては新鮮で、研修の成果も大きかった。幼稚園児という発達年齢を考えた場合、「親子の間できまりを作って守る」ということの重要性を再認識した。2015年度は、小学生を対象にネットにつながるゲーム機利用調査を実施した。(平松他 2015) その結果、中学校へ進級する以前から、ゲーム機によりインターネットへの接続が始まっていることが分かった。早い子どもは、幼児期からゲーム機に接し、オンライン、オフラインを意識しないままインターネットに接続している。子どもたちに向けて早期にネット社会のルールやマナーの指導が必要であるとともに、安全に利用するための指導の必要性が明らかになった。

3 研究のねらい

本研究で開発する「情報モラル研修プログラム」は、幼稚園の保護者および幼児を対象とし、ゲーム機やスマホ等のインターネットにつながるメディア機器を幼児や児童生徒に持たせる前に、保護者に基本的な生活習慣の確立、ネット依存の未然防止等に必要な知識を与え、安全な利用に向けた啓発を行うものである。

4 研究の進め方

本研究は、次の手順で進める。

- (1) これまでの知見を分析、収集
- (2) 幼稚園保護者を対象にしたメディア利用に関わる前調査の実施
- (3) (1) (2)に基づいて、幼稚園保護者及び幼児に向けた研修プログラム開発
- (4) 研修プログラムが必要とする教材の開発
- (5) 研修会の実施
- (6) 研修プログラムの有効性の検討

5 調査

研修プログラム実施前後に調査を行い、本研究の成果を検討する。

- (1) 調査内容：ゲーム機・スマホを与えようと考えている時期、使用制限機能、ゲーム機の保管場所、家庭のルール等
- (2) 実施：岡山市内幼稚園、平成 28 年 6 月 30 日
- (3) 対象：保護者 78 人 (年少 46 人、年長 32 人)

6 研修プログラム及び教材の開発

研修プログラムは、これまでの筆者らの研究を踏まえて、次のような構成とした。

回	タイトル	対象等
1	ゲーム機・スマホとのつきあわせ方 -子どもの未来を考えて-	全保護者

2	エプロンシアター 「まけないで！たろうくん」	全幼児及 び保護者
3	ゲーム機のペアレンタルコント ロールの設定体験講習	希望保護 者

(1) 第1回研修用教材：アニメーション

以下の内容を取り上げたアニメーション教材は株式会社 Compallet に試作を依頼した。

- ①ゲーム機利用と家庭の約束（利用時間、遊ぶ場所）
- ②安全な利用に向けた家庭での指導（個人情報、知らない人との通信）
- ③保護者へのお願い



図1 開発中のアニメーション教材

(2) 第2回研修用教材：エプロンシアター

次のA、Bの2部構成とする。

A－親子で学ぶ

- ①生活習慣
 - ②ゲーム機利用と家庭の約束
- B－保護者が学ぶ
- ③保護者の望ましいかわり方についての啓発

(3) 第3回研修内容：ペアレンタルコントロール

平成26年の「幼稚園家庭教育学級における体験型情報モラル教育の試み（その1）」で発表した内容をもとに構成する。

- ①携帯ゲーム機に潜む危険性
- ②保護者による操作体験
- ③ゲーム機同士の通信
- ④立体映像の試聴
- ⑤ペアレンタルコントロール

7 研修プログラムの実施

(1) 第1回 岡山市内幼稚園，平成28年6月30日

岡山県青少年健全育成促進アドバイザーを講師に迎え、開発したアニメーション教材を利用しながら、ネットの危険性や保護者の役割、家庭の約束について研修した。



写真1 保護者向け研修「ゲーム機・スマホとのつきあわせ方」

全保護者 78名（年少46，年長32）

(2) 第2回 岡山市内幼稚園，

その1 対象：年少親子 平成28年7月11日

その2 対象：年長親子 平成28年7月14日

環太平洋大学及び同大学子ども発達学科の学生の協力を得て、エプロンシアターを実施した。



写真2 親子で学ぶエプロンシアター

第1部は親子

で基本的な生活習慣や約束の大切さを学び、第2部では保護者が、家庭でのメディア利用の注意点等を研修した。

(3) 第3回

2学期後半に実施予定である。内容としては、家庭で使用している携帯ゲーム機を持参して具体的な設定方法およびその制限内容を確認するなどを想定している。

8 経過

本研修プログラムの効果については、第3回の研修実施後に行う後調査を待って分析することになるが、第1回、第2回を実施しての受講者から次の発言を得た。

- ・「子どもたちにとって身近な話であった。」
- ・「子どもとゲーム機についての話ができた。」
- ・「約束を守って使わせることが大切である。」

9 おわりに

今後はアンケートを分析・検討し、研修プログラム及び教材を改善して参りたい。

なお、本研究の一部は、安心ネットづくり促進協議会の助成を受けて実施した。関係の方々に紙面を持って謝意を表します。

参考引用文献等

坪田一男（2013），ブルーライト 体内時計への脅威，集英社新書

平松茂・桐野志摩美・遠藤勇次（2014），幼稚園家庭教育学級における体験型情報モラル教育の試み（その1），第40回全日本教育工学研究協議会全国大会京都大会

平松茂・桐野志摩美・遠藤勇次（2015），児童のネットにつながるゲーム機利用調査とその考察，第41回全日本教育工学研究協議会